

## 適用問題

3年 「全体と部分に目をつけて」(1/2)

### (1) 目標・評価規準

本時の目標	線分図を使って適切な立式をし、問題を解決することができる。
本時の評価規準	<p>【関】○既習を活用して、どんな式で解決すればよいかを考えようとしている。(観察)</p> <p>【技】○適切な立式をして、問題を解決することができる。(発言・ノート)</p>

### (2) 展開

学 習 活 動	主な発問と (○) 予想される児童の反応 (・)	評価規準 (評価方法)	指導上の留意点	
<p>1 問題を読み、問題の条件と求答事項を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>色紙を45まい持っていました。そのうち、何まいか配ったら、のこりが26まいになりました。配った色紙は何まいですか。</p> </div>	<p>○分かっていることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「45枚」と「26枚」です。</li> </ul> <p>○「45枚」とは何の数ですか。また、「26枚」とは何の数ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「45枚」は、持っている色紙の数で、「26枚」は残った色紙の数です。</li> </ul> <p>○聞かれていることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配った色紙の数です。</li> </ul>	<p>【関】既習を活用して、どんな式で解決すればよいかを考えようとしている。(観察)</p>	<p>*求答事項をしっかりとおさえる。</p> <p>*「45枚」が色紙全体の数であることをおさえる。</p>	
<p>2 見通しを立てる。</p>	<p>○式をノートに書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>45 - 26</math></li> <li>・<math>45 + 26</math></li> <li>・何も書かずに、戸惑っている。</li> </ul>			<p>*まずは、線分図を書かさずに自由に考えさせる。</p> <p>*間違った式が出ない場合は、教師側から提示し、児童の思考を揺さぶる。</p>
<p>3 めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 線分図を使って、式を考えよう。</p> </div>				
<p>4 自力解決をする。 《言語活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア学習 《言語活動》</li> </ul>	<p>○線分図を書いて、式と答えを求めましょう。</p> <p>○どのように考えたか説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持っていた45枚から残りの</li> </ul>			<p>*線分図が書けない児童には、机間指導の際に、色紙全体の数である「45枚」がどの部分であるかを助言する。</p> <p>*自分が書いた線分図を使って説明させる。</p> <p>*書画カメラで児童のノート</p>
<p>5 線分図を使って、求め方を発表し合</p>				

<p>う。</p> <p>《言語活動》</p> <p>6 まとめる。</p>	<p>26枚を引くと、配った枚数になるから、式は<math>46 - 26</math>で答えは19枚です。</p> <p>・持っていた45枚から□枚配ったから、<math>45 - \square = 26</math>で、□を求めるには<math>45 - 26</math>をして、答えは19枚です。</p> <p>○正しい式はどれですか。</p> <p>・<math>45 - 26</math>で、答えは19枚</p>		<p>を提示し、その線分図を使ってそれぞれの考え方を説明させる。</p> <p>*線分図と式を対応させて、話し合わせる。</p> <p>*□を使った式表現は、第15単元で扱うため、深入りしない。</p> <p>*代理説明やリレー説明を取り入れ、なるべくたくさんの児童が発表できるようにする。</p>
<p>まとめ 線分図を使って考えると、式がつくりやすい。</p>			
<p>7 適用問題をする。</p> <div data-bbox="191 1008 459 1355" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みかんが32こありました。校長先生に9こもらいました。</p> <p>みかんは何こになったでしょうか。</p> </div>	<p>○学習したことを使って問題を解きましょう。</p>	<p><b>【技】</b></p> <p>○適切な立式をして、問題を解決することができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>	<p>*問題文とは反対に、線分図を書いてから立式させる。</p>

(3) 適用問題

みかんが32こありました。校長先生に9こもらいました。

みかんは何こになったでしょうか。

(4) 授業を終えて

○適用問題は、誤答が多くなるようにあえて「全部で」のことばを除く等の工夫をした。予想通り、ひき算の式を立てた児童が多かった。そこで、線分図を使って確認するとたし算であることが分かり、まとめが腑に落ちなかった児童も、納得できたようだった。

●この授業の場合には、適用問題の後にまとめをした方が児童が線分図を使うことの良さが感じられ、納得できやすかったように思う。